

サムエル
聖徒伝 79

「心注ぎ出そう 主の前に」

I サムエル記1～2章 ハンナの祈り サムエルの誕生

アウトライン

- 0. イントロダクション
- I. サムエルの誕生 1章
- II. ハンナの賛歌 2章1~10節
- III. まとめと適用

信仰者の賛歌を歌おう



【無垢の時代】
天地創造

【良心の時代】
墮罪
~大洪水

【人類統治の時代】
バベルの塔事件

【約束の時代】
アブラハム
~ヤコブ

【律法の時代】
イスラエル
王国時代
メシア初臨

【恵みの時代】
聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

【御国の時代】
千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

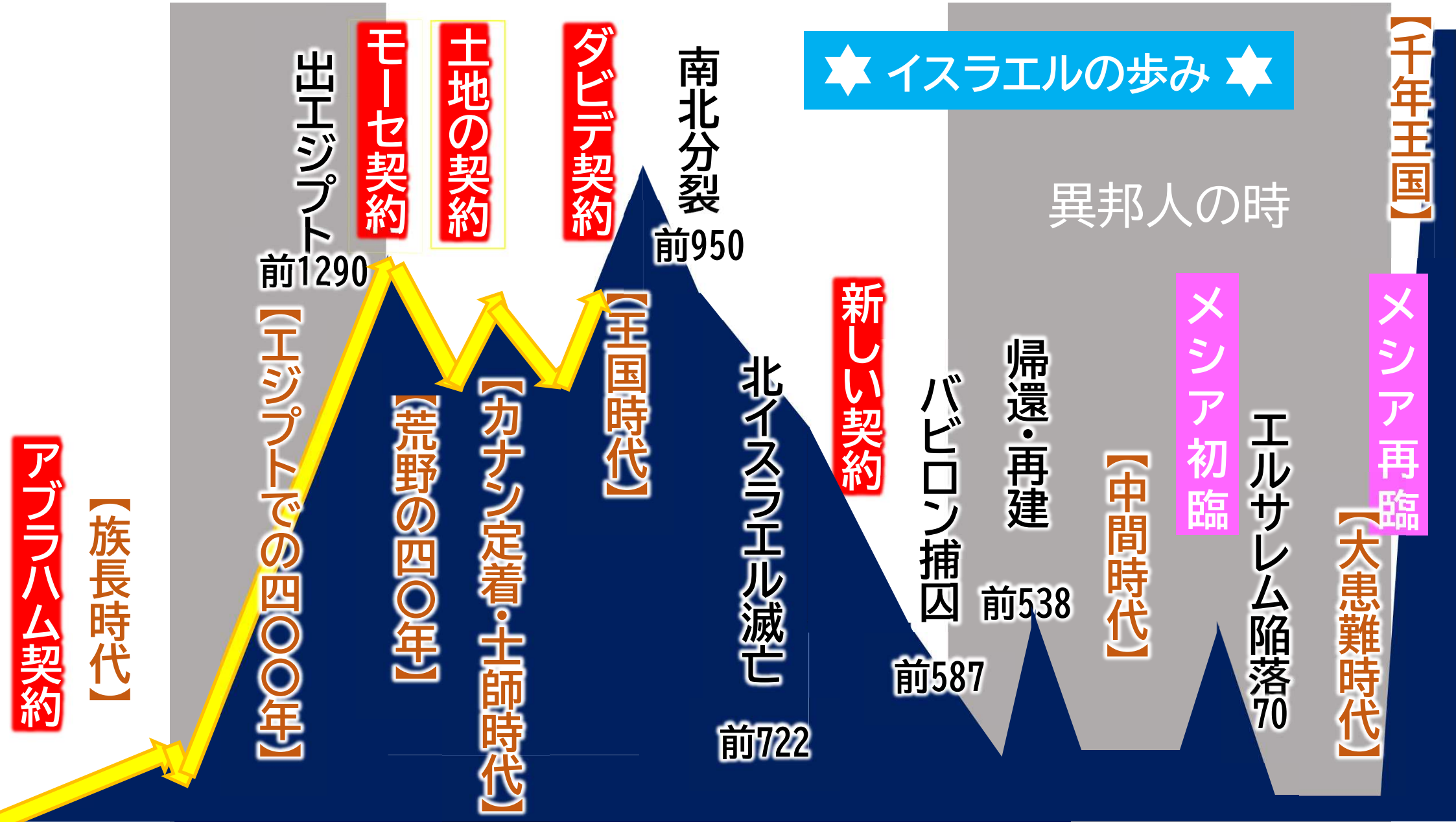
神の約束が、人類と世界の歴史を導く!!

過去

現在

未来

★ イスラエルの歩み ★



アブラハム契約

【族長時代】

【エジプトでの四〇〇年】

出エジプト
前1290

モーセ契約

【荒野の四〇年】

土地の契約

【カナン定着・士師時代】

ダビデ契約

【王国時代】

南北分裂
前950

北イスラエル滅亡

前722

新しい契約

バビロン捕囚
前587

帰還・再建
前538

【中間時代】

メシア初臨

エルサレム陥落70

異邦人の時

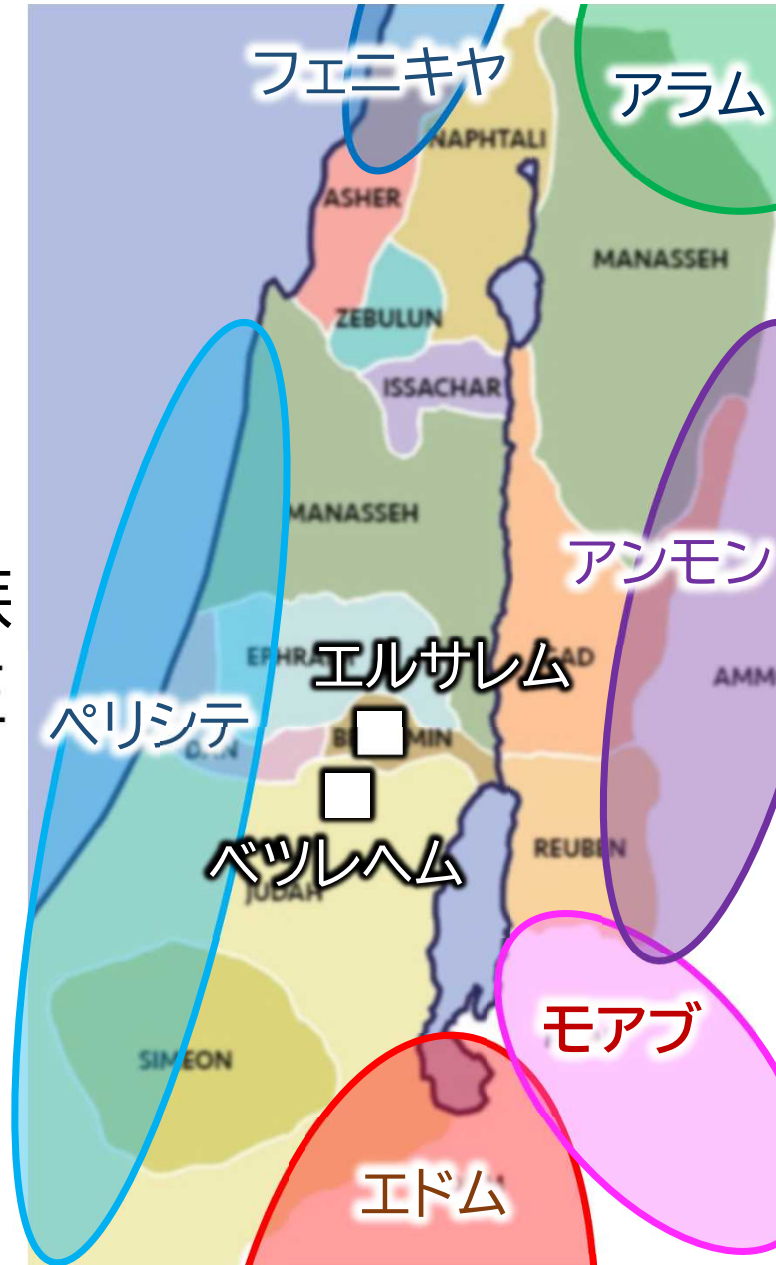
【大患難時代】

メシア再臨

【千年王国】

【最後の士師サムエル】

- 約束の地で相続地を手に入れたイスラエル。しかし、未征服の地も多く残り、カナン人の偶像礼拝が、たびたび悪影響をもたらした。
- 混沌の時代に主が立てた士師たちは、一部族のリーダーに過ぎず、全イスラエルを治める王は、まだいなかった。
- ついに誕生するイスラエルの王。その準備をしたのが、最後の士師とも言われるサムエル。



【サムエルのプロフィール】

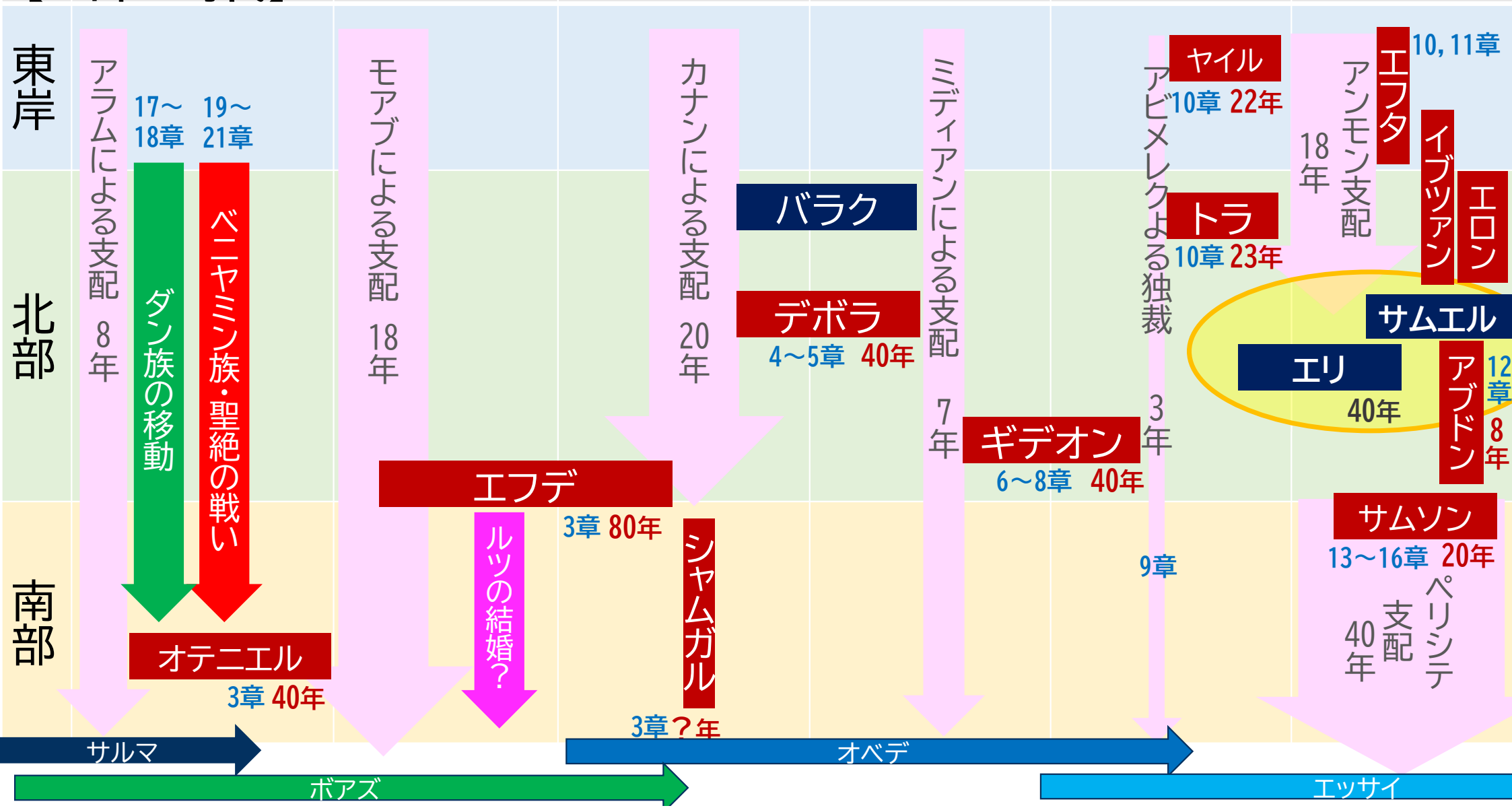
- レビ人ケハテ族 …幕屋の祭具(契約の箱)を運搬。
➔幕屋の奉仕者であって、祭司の一族ではない。
- この時代には**予見者**と呼ばれた。
最後の**士師**。**預言者**。
- 士師時代と王国時代をつなぎ、
イスラエルに王が誕生する前の**道ぞなえ**をした。
- 最初の王サウル。真の王**ダビデ**に油を注いだ。



【士師の時代】

BC1200

BC1100



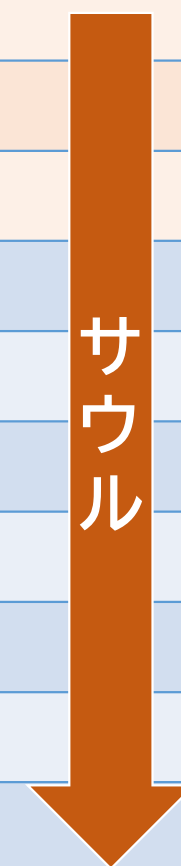
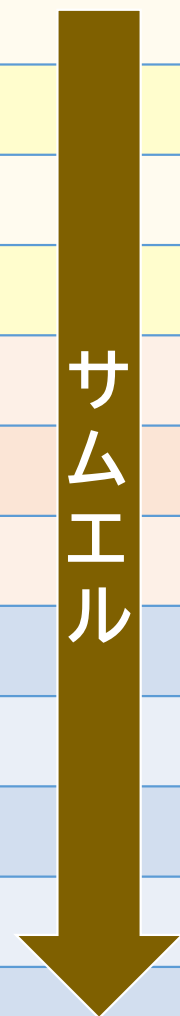
サムエル記 第一

士師時代

| | | |
|------|-----------|--------------|
| サムエル | 1:1~2:11 | サムエルの誕生 |
| サムエル | 2:12~3:21 | サムエルの召命 |
| サムエル | 4:1~7:17 | 奪われた契約の箱 |
| サムエル | 8:1~9:27 | 後継者不在 王を求める民 |

王政時代

| | | |
|-----|-------------|--------------|
| サウル | 10:11~11:15 | 油注ぎ |
| サウル | 12:1~25 | 士師サムエルの民への告別 |
| サウル | 13:1~15:35 | 王が重ねた神への背き |
| ダビデ | 16:1~13 | 油注ぎ |
| ダビデ | 16:14~23 | 王宮での奉仕 |
| ダビデ | 17:1~58 | ゴリヤテとの戦い |
| ダビデ | 18:1~30 | サウルの娘ミカルとの結婚 |
| ダビデ | 19:1~26:25 | 荒野の逃亡の日々 |
| ダビデ | 27:1~30:31 | ペリシテ人の地で |
| ダビデ | 31:1~13 | サウルの死 |





I. サムエルの誕生

I サムエル記1章

エフライムの山地

【寄留のレビ人エルカナ】 I サムエル1:1

エフライムの山地ラマタイム出身のツフ人の一人で、その名を**エルカナ***という人がいた。この人はエロハムの子で、エロハムはエリフの子、エリフはトフの子、トフはエフライム人ツフの子であった。

***エルカナ** ➡ “神のもの” …寄留のレビ人の一人。

【サムエルに至る系図】 I 歴代誌6:34～43

レビ ➡ **ケハテ** ➡ **イツハル** ➡ **コラ** ➡ **エブヤサフ**
➡ **アシル** ➡ **タハテ** ➡ **ゼパニヤ** ➡ **アザルヤ** ➡ **ヨエル**
➡ **エルカナ** ➡ **アマサイ** ➡ **マハテ** ➡ **エルカナ** ➡ **ツフ**
➡ **トアハ** ➡ **エリエル** ➡ **エロハム** ➡ **エルカナ**
➡ **サムエル**



エフライムの山地

【ハンナとペニンナ】 I サムエル1:2~3

エルカナには二人の妻がいた。一人の名はハンナといい、もう一人の名はペニンナ*と聞いた。ペニンナには子がいたが、ハンナ*には子がいなかった。

この人は、毎年自分の町から上って行き、シロ*で万軍の【主】を礼拝し、いけにえを献げることにしていた。そこでは、エリの二人の息子、ホフニとピネハスが【主】の祭司をしていた。

*ペニンナ …“juwel”“宝石、真珠”（※このみ）

*ハンナ …“grace”“恵み、恩寵”

*シロ ➡幕屋が張られ、契約の箱が置かれていた地。



シロ

【信仰者と不信仰者】 I サムエル1:4~5

そのようなある日、エルカナはいけにえを献げた。彼は、妻のペニンナ、そして彼女のすべての息子、娘たちに、それぞれの受ける分を与えるようにしていたが、ハンナには特別の受ける分を与えていた。【主】は彼女の胎を閉じておられたが、彼がハンナを愛していたからである。また、彼女に**敵対する**ペニンナは、【主】がハンナの胎を閉じておられたことで、彼女をひどく**苛立たせ**、その**怒り**をかき立てた。

- エルカナとハンナは、神に従う**信仰者**。ゆえの愛。ペニンナは、信仰者ハンナに**敵対する不信仰者**。

読み解くカギは
信仰!!



幕屋の祭壇

【ハンナの涙が止まらぬ理由】 I サムエル1:7~8

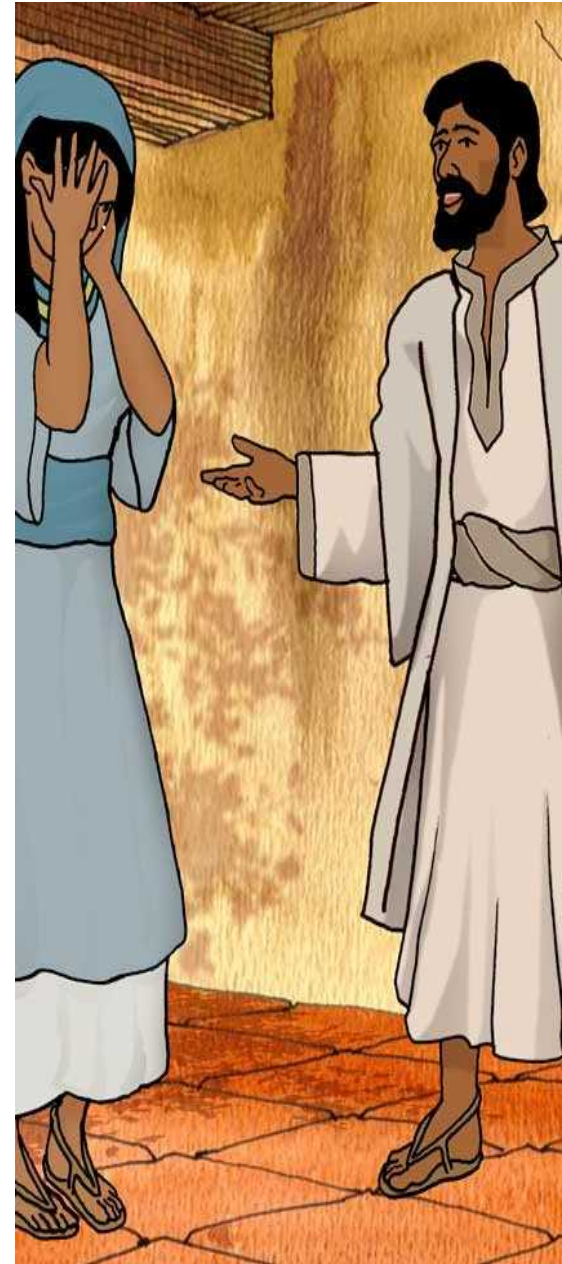
そのようなことが毎年行われ、ハンナが【主】の家に上って行くたびに*、ペニンナは彼女の怒りをかき立てるのだった。こういうわけで、ハンナは泣いて、食事をしようとしなかった。夫エルカナは彼女に言った。「ハンナ、なぜ泣いているのか。どうして食べないのか。どうして、あなたの心は苦しんでいるのか。あなたにとって、私は十人の息子以上の者ではないか。」

* 信仰者の祈りの阻害こそ、不信仰者の本領発揮。

■ ハンナが欲していたのは、エルカナを継ぐ子。

➡ 夫の愛ではなく、神への責務を果たすこと。

■ このイスラエルの最大の責務は、地と血の相続。



【ハンナの切なる願い】 I サムエル1:9~10

シロでの飲食が終わった後、ハンナは立ち上がった。ちょうどそのとき、祭司エリは【主】の神殿の門柱のそばで、椅子に座っていた。ハンナの心は痛んでいた。彼女は激しく泣いて、【主】に祈った。そして誓願を立てて言った。「万軍の【主】よ。もし、あなたがはしたための苦しみをご覧になり、私を心に留め、このはしためを忘れず、男の子を下さるなら、私はその子を一生の間、【主】にお渡しします。そしてその子の頭にかみそりを当てません。」

- ハンナは、神と取引しているのではない。
 - ➡レビ人の妻としての責務を果たすことを切望。
- 息子をナジル人として捧げることこそ彼女の本意。



不信仰者の
祈りは取引



信仰者の
祈りはささげもの

【エリの筋違い】 I サムエル1:12~14

ハンナが【主】の前で長く祈っている間、エリは彼女の口もとをじっと見ていた。

ハンナは心で祈っていたので、唇だけが動いて、声は聞こえなかった。それでエリは彼女が酔っているのだと思った。エリは彼女に言った。「いつまで酔っているのか。酔いをさましなさい。」

- 捧げものを口実に宴に酔いしれる者が多かった？
- 祭司でありながら、この靈的感性の低さは何？
 - ➔ 祭司である息子たちの神への反抗と不信仰を見逃していたことが、次章で明らかにされる。



【ハンナの答え】 I サムエル1:15~17

ハンナは答えた。「いいえ、祭司様。私は心に悩みのある女です。ぶどう酒も、お酒も飲んでではありません。私は【主】の前に心を注ぎ出していたのです。これはしたためを、よこしまな女と思わないでください。私は募る憂いと苛立ちのために、今まで祈っていたのです。」

エリは答えた。「安心して行きなさい。イスラエルの神が、あなたの願ったその願いをかなえてくださるように。」

- ハンナは、この時、イスラエルの誰よりも神の近くに置かれ、誰よりも親密に主と交わっていただろう。
- ハンナの答えに、悔い改めを促されたエリは、本来の神のとりなし手として、主の祝福をハンナに与えた。



【主と一致したハンナの願い】 I サムエル1:18~19

彼女は、「はしためが、あなたのご好意を受けられますように」と言った。それから彼女は帰って食事をした。その顔は、もはや以前のようではなかった。

彼らは翌朝早く起きて、【主】の前で礼拝をし、ラマにある自分たちの家に帰って来た。エルカナは妻ハンナを知った。【主】は彼女を心に留められた。

- 主が祈りを聞かれたこと。すなわち、主の思いと自分の祈りが一致したことを知ったのだろう。
- ハンナの願いが、主の計画と一致したということ。



ラマの付近

【叶えられた真実の祈り】 I サムエル1:20~22

年が改まって、ハンナは身ごもって男の子を産んだ。そして「私がこの子を【主】にお願いしたのだから」と言って、その名をサムエル*と呼んだ。

*サムエル ➡ “彼の名は、神” 名は、属性を示す。
“彼は、神のもの” という意味。

■ハンナは、主のものとするため、子を願った。

■ハンナが、ずっと願い続けてきたのは、まさに、自分の子を主にささげることだったと分かる。



【ハンナの真実の誓願】 I サムエル1:21~22

夫のエルカナは、年ごとのいけにえを【主】に献げ、自分の誓願を果たすために、家族そろって上って行こうとした。しかしハンナは、夫に「この子が乳離れして、私がこの子を連れて行き、この子が【主】の御顔を拝して、いつまでもそこにとどまるようになるまでは」と言って、上って行かなかった。

- ハンナは、息子との別れを惜しんだのではない。
 - ➡ハンナは、息子をささげるべき主の時に備えた。
- ハンナが、主の前に自分の誓願を果たすのは、サムエルを神の奉仕者としてささげる時。



【時が満ちて】 I サムエル1:23~25

夫のエルカナは彼女に言った。「あなたが良いと思うようにしなさい。この子が乳離れするまでとどまりなさい。ただ、【主】がそのおことばを実現してくださるよう

に。」こうしてハンナはとどまって、その子が乳離れするまで乳を飲ませた。

その子が乳離れしたとき、彼女は子牛三頭、小麦粉一エパ、ぶどう酒の皮袋一つを携えてその子を伴って上り、シロにある【主】の家に連れて行った。その子はまだ幼かった。彼らは子牛を屠り、その子をエリのところに連れて行った。

- エルカナも、ハンナの信仰を理解し、主と一致した。
- 時が満ち、多くのささげ物を携え、幕屋に上った。



【証しされたハンナの信仰】 I サムエル1:26~28

ハンナは言った。「ああ、祭司様。あなたは生きておられます。祭司様。私はかつて、ここであなたのそばに立って、【主】に祈った女です。

この子のことを、私は祈ったのです。【主】は私がお願いしたとおり、私の願いをかなえてくださいました。

それで私もまた、この子を【主】におゆだねいたします。この子は一生涯、【主】にゆだねられたものです。」
こうして彼らはそこで【主】を礼拝した。

- エリも、ハンナの信仰に驚愕しただろう。
- 士師の時代に、ハンナが示した主への信仰は、永遠に記念されるものとなった。



レビ人
神の奉仕者として
ささげられたサムエル



Ⅱ. ハンナの賛歌

I サムエル記2章1～10節

エフライムの山地

【ハンナの賛歌とは】 I サムエル2:1~10

■ 信仰者ハンナが、主を讃えて歌った歌。

信仰がなければ、
決して理解できない歌

■ 中心のテーマは、信仰者にもたらされる**逆転**。

“**信仰のゆえに、世で侮られ、虐げられる者を、
主は、その信仰のゆえに、高く上げてくださる。**”

* **角を上げる** ➡ 権威を与え、地位を高めること。

* **敵に口を大きくあける** ➡ 敵を飲み込む圧倒的勝利。

* **地の果ての果てまで** ➡ イスラエルにとどまらず、
異邦人世界すべてにおいて。



エフライムの山地

【ハンナの賛歌】 I サムエル2:1~3

ハンナは祈った。

「私の心は【主】にあって大いに喜び、私の角は【主】によって高く上がります。私の口は敵に向かって大きく開きます。私があなたの救いを喜ぶからです。

【主】のように聖なる方はいません。まことに、あなたのほかにはだれもいないのです。私たちの神のような岩はありません。

おごり高ぶって、多くのことを語ってはなりません。横柄なことばを口にしてはなりません。まことに【主】は、すべてを知る神。そのみわざは測り知れません。



【ハンナの賛歌】 I サムエル2:4~2:8

勇士が弓を砕かれ、弱い者が力を帯びます。

満ち足りていた者がパンのために雇われ、飢えていた者に、飢えることがなくなります。不妊の女が七人の子を産み、子だくさんの女が、打ちしおれてしまいます。

【主】は殺し、また生かします。よみに下し、また引き上げます。

【主】は貧しくし、また富ませ、低くし、また高くします。

主は、弱い者をちりから起こし、貧しい者をあくたから引き上げ、高貴な者ととともに座らせ、彼らに栄光の座を継がせます。



【ハンナの賛歌】 I サムエル2:8~10

まことに、地の柱は【主】のもの。その上に主は世界を据えられました。

主は敬虔な者たちの足を守られます。しかし、悪者どもは、闇の中に滅び失せます。人は、自分の能力によっては勝てないからです。

【主】は、はむかう者を打ち砕き、その者に天から雷鳴を響かせられます。【主】は地の果ての果てまでさばかれます。主が、ご自分の王に力を与え、主に油注がれた者の角を高く上げてくださいますように。」





Ⅲ. まとめと適用

信仰者の賛歌を歌おう

エフライムの山地

【信仰者ハンナの祈りを覚えよう】

- ハンナが乾き求めたのは、その時代の神の民の責務を果たすこと。
- 生まれる子を請願者ナジル人としてささげると誓ったのは、まさにそれこそ、ハンナの願いであったから。
- ハンナは、自分の願いが主の計画に一致すると知り、平安を得た。
→ 自分の願いが主の計画と一致する。それこそ、信仰者の信仰の証明。
- ハンナのように、主の前に自分の心を注ぎ出そう。
多くの場合、私たちの願いは、主の思いとは一致しないだろう。
過ちに気づかされたなら、悔い改めて、主の御声にこそ聞き従おう。

【信仰者ハンナの賛歌を覚えよう】

■ハンナの賛歌は、信仰者のみが体験しうる、信仰者の逆転の歌。

“信仰のゆえに、世で侮られ、虐げられる者を、
主は、その信仰のゆえに、高く引き上げてくださる。”

■究極の逆転は、再臨の主イエスによってもたらされる。

■主イエスを信じた者に、**来たるべき御国**において約束された逆転。

★主イエスと共に、**御国の世継ぎ、王、共同統治者**とされる。

★すべての敵に、**完全な勝利**を収める。

★主の栄光に完全に満たされた世界に、**永遠に住まわされる**。

イスラエルも異邦人も、すべての信じた者たちと共に。

【サムエルと洗礼者ヨハネ】

■サムエルもヨハネも、信仰者である不妊の女から生まれた。

それぞれの両親とも、不信仰者の時代に残された真の信仰者だった。

➡二人の誕生そのものが、まさに、**信仰者の逆転**を表すもの。

来たるべき**メシアを告げる、主のメッセージ**となっている。

➡**究極の信仰者の逆転は、メシアが建てる神の国で実現される。**

■サムエルもヨハネも、生まれながらに、**主にささげられた請願者・**

ナジル人とされた。髪を切らず、ぶどう酒を絶ち、汚れた死体を避けた。

■サムエルは、イスラエルの王の**道備え**をした。

➡洗礼者ヨハネは、イスラエルのメシアの**道備え**をした。

【ハンナに学ぼう、今を生きる信仰者の心がまえ】

■ 信仰者にとって最も重要なことは、**その時代の責務**を果たすこと。

➡ 今の教会時代の使命は、**福音を宣言し、主イエスの弟子とされること**。

■ 主イエスは、私の罪のため、十字架にかけられ、死んで葬られ、復活された。この**福音を信じ、信じ続けていこう**。私の罪は赦された。

■ なお残る**自分の課題に向き合おう**。ただ主のみを誇る者は、どんなに情けない自分をも直視し、主に委ね、悔い改めの行動を起こしていける。

■ **聖書の学びを深めよう**。主の計画への確信が、将来約束された栄光

【マリアの賛歌】 ルカ1:46～50

マリアは言った。

「私のたましいは主をあがめ、
私の霊は私の救い主である神をたたえます。

この卑しいはしために目を留めてくださったからです。ご覧ください。
今から後、どの時代の人々も私を幸いな者と呼ぶでしょう。
力ある方が、私に大きなことをしてくださったからです。

その御名は聖なるもの、
主のあわれみは、代々にわたって主を恐れる者に及びます。

【マリアの賛歌】 ルカ1:51～55

主はその御腕で力強いわざを行い、
心の思いの高ぶる者を追い散らされました。
権力のある者を王位から引き降ろし、
低い者を高く引き上げられました。
飢えた者を良いもので満ち足らせ、
富む者を何も持たせずに追い返されました。

信仰の逆転をもたらす
約束の主を信頼しよう
信頼し続けていこう

主はあわれみを忘れずに、
そのしもベイスラエルを助けてくださいました。
私たちの父祖たちに語られたとおり、
アブラハムとその子孫に対するあわれみをいつまでも忘れずに。」

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがなう)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。

まさに、おどろくほどのめぐみを、主はハンナに与えられました。

どうか、わたしのねがいが、主の思いと一致(いっち)しますように。

ハンナのようにへりくだり、主に聴(き)き従(したが)うものとして、

あゆませてください。

この時代の使命(しめい)を担(にな)い、主イエスのまことの弟子として

わたしを遣(つか)わしてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」